

大学院教育学研究科

所 属 ・ 職 位	大学院教育学研究科（教職大学院）・教授	
氏 名	柴田 康弘 (Shibata Yasuhiro)	
取 得 学 位	修士（教育学）、福岡教育大学、2009 年 3 月	
S D G s 目 標	  	

研 究 分 野	社会科教育、教育(授業)実践
研究キーワード	市民的資質、真正(ガチ)の学び、カリキュラム・マネジメント、NIE、授業研究
研 究 内 容	<p>福岡県(主に筑豊地方)での25年間の教員(飯塚市立中学校・施設一体型小中一貫校・福岡教育大学附属小倉中学校・飯塚市教育委員会指導主事)経験を有しています。研究的実践者/実践的研究者として、現場で子ども達(保護者の方、同僚の先生方、地域の皆様、企業・行政の方々など関係の全ての方を含めて)と紡いできた実践経験に根ざして、「楽しくなければ授業じゃない!」を合言葉に、社会科を中心とした「学び」の研究を進めていきたいと考えています。</p> <p>○ 社会科実践研究</p> <p>「真正の学び(Authentic Achievement)」の概念に依拠した、社会科の実践研究に取り組んでいます。特に、議論や対話によって、子どもが「ガチ」(本気・真剣・前のめり・リアル)に社会をつくる(更新する)授業の開発・実践や、その学習評価に関心をもっています。</p> <p>○ カリキュラム・マネジメント(教科等横断的学習)の実践研究</p> <p>子どもにとっての学ぶ意義、資質・能力育成をめざす教育においては、子どもが生きる社会の文脈に沿った、ダイナミックな学びが不可欠です。その実現のために、社会科を含めた教育課程全体での教科等横断的学習を実現するカリキュラム・マネジメント、授業研究や教師の協働の在り方についての研究を進めます。</p> <p>○ 社会科関連領域の授業開発・実践研究</p> <p>社会科の研究や学習対象：目標・内容・方法は実に多様で多彩です。そこからさらに派生して、関連領域としてのNIE(Newspaper in Education)、ESD/SDGs、法関連教育等の研究的実践/実践的研究にも積極的に取り組んできました。学校現場の状況に応じた、様々な分野・領域の授業開発・授業改善、実践研究に取り組みます。</p>
研 究 業 績 ・ アピールポイント	<p>上記に関連する代表的な論文・著書等は以下の通りです。</p> <p>●論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊嶋啓司・柴田康弘(2023)「社会科学習の自律化はいかに可能か-形成的アセスメントを手がかりに-」社会系教科教育学会『社会系教科教育学論叢』第2号, pp. 37-48. (共著) ・柴田康弘(2021)「教育実践研究としての授業研究再考-学びの主体としての子ども参画による授業協議会の試みとその効果-」日本教育大学協会『令和2年度日本教育大学協会年報』第39号, pp. 111-123. ・柴田康弘(2014)「いっしょに読もう! 新聞コンクールの社会科における意義と可能性」日本NIE学会『日本NIE学会誌』第9号, pp. 11-20. <p>●著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国社会科教育学会編(2022)『優れた社会科授業づくりハンドブック』「中学校における優れた社会科授業の多様性 第3節 中学校公民的分野:「平等(権)」の授業を創る 1 多様な問題を検討するための枠組みをつくらせる」pp. 136-141. (共著) ・草原和博・川口広美編『学びの意味を追究した中学校公民の単元デザイン』「9 地方自治と私たち-市民としての政治参加のあり方とは」pp. 86-91. 及び「18 より良い社会を目指して-社会科卒業検定としての学びを」pp. 140-145. (共著) <p>●報告書等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・柴田康弘(2021)「児童生徒への評価: “ガチ評価” が子どもを伸ばす!」公益財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)『変容を捉え、変容につながる評価のカタチ-SDGs時代を生きる学校教員の知恵-』pp. 15-19. (共著) <p>※陸上競技では、国際審判員: World Athletics Referee Bronze Level として、東京オリンピック(2021)等国际大会の競技運営に参加。</p>